菜の花🌼theory

「なぜ菜の花はうまくいくのか」

ー 介護ロボット導入　幹人会における成功のヒント ー

監修：医療法人社団幹人会
発行：CYBERDYNE株式会社

法人紹介

東京都ロボット介護機器・福祉用具活用モデル事業
モデル施設

- 法人名　　医療法人社団幹人会
- 導入施設名　介護老人保健施設ユニット菜の花
- 所在地　　東京都西多摩郡瑞穂町殿ヶ谷454

「介護とロボットの関わりを科学的に検証して、介護の本質を見極めながら、ロボットとの関わりを探っていきたい」と事業目的を語る玉木理事長。　（西多摩新聞記事より 2017/4/14）
「介護の本質的な部分は人間の仕事。本来アナログな世界である介護の現場の中で、最先端のIT技術を前向きに取り入れることで、将来の医療・介護分野でのロボット導入のモデルになれれば」と、その先進的な考え方は、法人の理念にも掲げられている『科学的根拠に基づくサービスの提供』として、意識の高い現場職員にも受け継がれている。

©2017　CYBERDYNE Inc.

導入前準備（目的の共有）

- 法人としてPJへの取り組みを職員に説明
- 職員への聞き取り

  腰痛の度合い、時間帯による必要性をヒアリング

「本当に必要としている人から使用しないと広がりがない」と考えた

- リーダー会議での共有

  ユニット毎に、負担が集中する業務・時間帯を見極める

  ↓

  どうしたら負担が軽減されるのか話し合いを行う

CYBERDYNE

©2017　CYBERDYNE Inc.

分析

菜の花様の場合

◎認知症専門のフロアの業務負荷が高い

- 職員の指示を理解したり、協力動作を得られない
- 女性職員の割合が高い
- 慢性的に腰痛保持者が多い
- 朝方の起床介助に負担を感じる

©2017　CYBERDYNE Inc.

結果

菜の花様の場合

◎認知症フロアの女性職員から導入

必要性こそが定着への最大のセオリーである

- 腰痛保持者または不安のある人
- ロボットに対する興味、理解のある人

©2017　CYBERDYNE Inc.

導入時の工夫

教える側も教わる側も負担の少ないよう配慮

1. 法人側の理解（業務と習熟のための時間を考慮）
2. 事前にYouTubeを視聴
3. 実技

©2017　CYBERDYNE Inc.

考察

興味がある人の習熟度は高い

自分で覚えようという意識は絶大

- １週間で脱着の手順がスムーズに行えるようになる
- １ヶ月程で自分の体とHALの動きがシンクロできる

◎結果として、最大限の効果を得ながら業務に入ることができた

↓ 良い連鎖

上達者が習熟の進まない人へのアドバイスを行う

CYBERDYNE

©2017　CYBERDYNE Inc.

定着のための工夫

指示出し・ルール化をしないと習慣化は無い

STEP1　勤務表に『HAL』と記入し、原則として
その職員は装着をして業務にあたる

STEP2　定着が進んだら、必要な時に着けて、
不要な時は外す運用を確立

©2017　CYBERDYNE Inc.

用途と理想的な用法

意識的に使用

菜の花様では常勤と非常勤職員が使用者講習を受講

- 常勤　　朝方の起床介助
- 非常勤（日勤）重介助者のベッドからの移乗・入浴介助

次のステップへ

使いこなす

勤務表無しでも『疲れが溜まっているから装着しよう』など、個人の判断で自然に意識がロボットに向いていくことが労働災害の防止に繋がる

©2017　CYBERDYNE Inc.

今後HALを導入する施設へのアドバイス

経営サイドから「使いなさい」と渡されても、
現場だけでは絶対に上手くいかない

- 本部や事務の役割　　メンテナンスや連絡調整役
  現場職員が装着に慣れる時間を理解する
- 現場職員　　何のために使用するか意識して取り組む

<u>現場と経営との両輪が連携できたことが菜の花の成功ポイント！</u>

現場が使うことに集中できるための環境づくりが重要

©2017　CYBERDYNE Inc.

菜の花様からのメッセージ

　職員の負担を軽減するための取り組みはいろいろあるけれど、介護職員にとってロボットはまだ馴染みが少ない。着てみて触れて、実際に効果を体感することが大切だと思う。腰痛体操や体を鍛えることだけではなく、HALというツールがあることを知ってもらうことで、将来的に職員の負担軽減に繋がっていけたら良い。

　急性腰痛などでシフトに穴があいてしまう施設も多くあると思う。自分の体に余裕がないと、満足いただけるケアを提供するのは難しい。求められるケアを行うためには、自分が健康で、体力に余裕があって初めて、しっかりと利用者様と向き合うことができると思っているので、HALを利用して介護職員の身体的負担を軽減することは有効だと考えます。

インタビューに答えてくれたイケメンを紹介します。
映像は要チェックです！

武田さん
勤続１４年
ケアマネ・介護業務兼務
既婚　子供２人

CYBERDYNE

©2017　CYBERDYNE Inc.